

大学で学べる音楽講義に関する報告 『資料：慶應義塾大学 春学期授業開講例』

担当者	設置課程	サブタイトル	授業内容	評価方法
尾高皖子	学士課程	人間は音楽を「なぜ」「いかに」必要としたのか？	人間は、音楽や音、音をとまなう儀礼や芸能とどう向き合ってきたのだろうか。その諸相を改めて見直してみよう。子供の頃から当たり前のようを受けてきた音楽の授業や、いつ、いかに準備されたのか？何が音や音楽の生成や変化、淘汰の契機になったのか？こうした諸々の問題点を毎回オムニバス形式でとりあげる。	・ 出席を出席カードで毎回確認します。 ・ 出席が全講義の3分の2以上なら期末テストの受験資格が得られます。 ・ 期末テストは講義期間最終日に実施、6割以上の得点があれば合格です。 ・ テスト時は、講義の筆記ノートと配布資料のみ持ち込みます。デジタル機器の持ち込みは不可です。 ・ 出席7割以上をクリアした受験者について、出席回数が多い方を成績判定では勘案しません。*
福田弥	学士課程	バロック音楽の歴史 (声楽)	* この授業では1600-1750年ごろ、西洋音楽史で一般にバロックと呼ばれる時代の音楽を概観します。1回の授業で2つから3つ、代表的な作品を取り上げて、CDやDVDを使いながらそれぞれの音楽がどのような特徴を持っているか学んでいきます。基本的には楽曲の内容を紹介することをメインに授業を進めますが、参加者の興味に応じてそれ以外の重要なテーマ（当時の楽器、演奏習慣、社会背景など）も取り上げたいと思います。 春学期は声楽作品をほぼ時代順に取り上げていきます。音楽史の予備知識や演奏経験などは問いません。授業中楽譜を見ながら話を進めることがありますが、音源やピアノを使って耳で聞いて理解できるようにするので、楽譜が読めない人でも問題なく受講できます。	定期試験による。平常点（出席）も多少加味
土田晴信	学士課程	Jazz History	"This class is designed to introduce students to the history of jazz. It is also aimed to increase their understanding of and appreciation for jazz music. Jazz music has stylistically changed over the last 100 years. We will learn the history of jazz from the beginning of jazz to the multiple styles in the present. This is beneficial not only for students who are interested in jazz music but also students who are learning how to play jazz. By participating fully in this class, students will - develop their listening skills for enjoying and understanding jazz music - become familiar with many of the major figures in jazz. - engage with other students in classroom discussions - deliver in-class presentations. - improve their English skills."	*Midterm 30% Project/Presentation 30% Final Exam 30% Attendance/Class Participation 10% 100-90=A, 89-80=B, 79-70=C, 69 and below=F*
吉川文	学士課程	中世からルネサンスにかけての西洋音楽の歴史	私たちの周囲には実に多様な音楽があふれていますが、ふだん耳にする多くの音楽は、西洋音楽の歴史の中で培われてきた少なからぬ要素を含んでいます。授業では西洋中世からルネサンス期の音楽を対象とし、実際の曲例に則して音楽の特徴を確認しながら、現代の音楽に繋がってくるものがあるのか、あるとすればどのようなものなのかを考えます。また、それぞれの音楽がどのように成立し、当時の人びとにとってどのような存在であったのかを見ていきます。音楽が求められた文化的背景や、当時の社会との関わりなどにも目を配り、人びとと音楽との関係性を考えるための多様な視座を得ることを目標とします。	平常点（出席、授業内のコメント用紙）、レポート課題による評価。
井上智	学士課程	The Basis of Jazz Improvisation	"[Jazz]Jazz music is one of the 20th century's most important and enduring art forms. It is an original American musical art form which emerged around the beginning of the 20th century in African American communities in the Southern United States. It has developed out of the interchange between African and European music traditions. Also it has evolved to many styles while absorbing the elements of other music genre. Meanwhile jazz also influenced other cultures, such as theater, dance, and literature.As jazz spread around the world, it is played and listened to by people of all over the world. [About The Course] One of the basic elements that sets jazz apart from other types of music is improvisation, which is instant composition of a new melody. This course addresses basic theory, fundamental for jazz improvisation,through playing, singing, listening, writing, analyzing and tapping. And through performance practices we learn how to apply the theory on the real playing and how to build a jazz vocabulary. The student upon course completion will have the basic tools to create jazz melodies at a simple harmonic level."	Attendance, attitude, and improvement.
福中冬子	学士課程	オペラ史	*現代の日本では、ミドルクラスの為の娯楽以上のなにもないように見なされるに至ってしまっている「オペラ」という音楽ジャンルだが、そもそも16世紀の末、フィレンツェを拠点とする歌者や芸術家、詩人などから成る学際的なグループが、古代ギリシャ時代の「公共」の精神の復興を目指して創りあげた、市民社会のための総合芸術である。そうした「オペラ」の歴史をたどりながら、作曲家や脚本家、演奏家が、時の政治や社会状況にどのように向き合いつつ創作活動を行ってきたのか、またどのような創作美学の史的変遷が見られるのか、オペラ史上の代表作を通じて学ぶ。 前期は最初期のオペラから19世紀イタリアおよびフランスのオペラまでを対象とする。後期はワーグナー以降、19・20・21世紀のオペラ作品を扱う。*	期末テスト。不定期に、講義内で簡単なレポート（感想文）を課すことがある。
	学士課程	楽曲分析入門	*音楽作品を理解する・読むという作業がどのような成り立ちをしているのか——時代や様式・技法が異なる諸作品の分析を通じて学ぶ。毎回、楽譜を使って講義を行うので、楽譜を読むための最低知識（音名など）を持っていることが必須。 前期は音楽理論の基礎概念をカバーし、それを応用した分析（主に調性音楽）を試みる。*	期末試験および講義内で出される課題。出席も重要視する。
石多正男	学士課程	西洋音楽文化史入門 1	クラシック音楽を歴史を追って学び、鑑賞します。担当者独自の分析表を参照しながらCDを聴き、またDVDを観ます。さらに、各作品の理解を深めるために同じ時代の政治社会思想、美術、文学なども学びます。	学期末に筆記試験
藤井孝一	学士課程	音楽と技術(1)：1950年代以前・アナログの時代	* テクノロジーやメディアという言葉を聞くと、21世紀に生きる私たちは、コンピュータやインターネットなどのエレクトロニクスに基づく先端技術を思い浮かべがちでしょう。しかしながら、ルネサンス期の印刷技術や産業革命期の機械技術、近代の録音技術も、その時代においては最先端の技術であったのです。 この講義では、印刷、機械、録音など、近代以降に発達した技術やメディアと音楽との関係を軸に、古代から20世紀前半にかけての西洋音楽史を概観します。大作曲家の伝記や年代記的な音楽史ではなく、トピック毎に、技術の発達や音楽の創作や聴取（もしくは消費）の有り様にもどのような変化をもたらした、ひいては現在の私たちの音楽に向き合う態度を形成する上でどのような影響を及ぼしてきたのか、学生諸君と一緒に考えてみたいと思います。【芸術】音楽ばかりでなく、ジャズやロックなどのポピュラー音楽についても時間の許す限り触れたいと考えています。講義で取り上げる作品の理解に必要な音楽様式や時代背景などについても詳説します。 現代社会に生きる私たちの音楽そして技術と向き合う態度について、深く考えるきっかけになれば幸いです。*	出席率（60%以上が原則）と期末試験（持込可）により評価します。作品鑑賞の感想文など、授業中に提出する簡単なレポートを課し、平常点として加味することがあります。
大島博	学士課程	合唱音楽（演奏実践を含む）①	*海外の大学には、よく学生と教員とが一緒になって演奏を楽しむコレギウム・ムジクムという団体があり、学内や地域の方々に演奏を披露しています。この授業では、その伝統に倣い、古今の合唱の名曲を実際に歌うことによって、音楽の歴史の一端を体験します。春学期は、発声や発音といった基礎的な事柄に比重を置いて授業を進めます。	*出席率・授業態度（70%） レポート/課題の評点（30%）*
広瀬大介	学士課程	音楽理論入門(1)	*この授業では、西洋音楽における理論的基礎を、実習を伴いながら学びます。 1) 教科書『和声法』（ウォルター・ピストン）に従った和声学の学習と、 2) 西洋音楽理論の諸問題についての講義から構成されます。 各回に実習課題を課し、履修者は毎週この課題を提出することが求められます。春学期の基礎編では、和声の原則の一通り学び、簡単な四声の和声課題が実施できるようになることを目的とします。	* 宿題の提出状況(毎回宿題を課すので、出席を兼ねる)。5回以上提出がない場合は成績評価しない。 * 最終回に授業内試験を行い、宿題との総合的判断によって評価する。*

石井明	学士課程	バロック期と古典期の音楽：楽器と器楽作品	<p>西洋音楽史上では、1600年前後において新しい形の声楽作品、すなわちオペラの誕生を見ます。そしてこれがその後の200年間、つまりバロック期と古典期において音楽文化を牽引する役割を担うこととなります。その一方でこの時代は、それ以前とは比較にならないほど器楽が大きく発展した時期でもありました。そして18世紀が終わるころまでに器楽は成熟し、器楽作品のみで構成される本格的なコンサートが頻繁に開かれるまでになりました。そして、ベートーヴェン、ハイドンなど、声楽作品よりは器楽作品の方がよく知られる作曲家たちの存在が大きく注目されるようになっていきました。</p> <p>このような器楽の飛躍の理由の一つに、楽器の発展を挙げることができます。これには、作曲家・音楽家たちが、時代の変化とともに楽器に何を求めるようになっていったのかということが反映されているだけでなく、楽器職人たちによる、それぞれの楽器が持つ可能性の拡大という要素も忘れることはできません。</p> <p>そこでこの授業では、当時使われていた楽器を鍵盤楽器、弦楽器、管楽器に分けてそれぞれについて考察し、各楽器がどのように理解されていたのか、どのように活用されていたのか、そしてどのような社会的な役割が与えられていたのかなどを考えていきます。そしてこれらの楽器のためにどのような器楽作品が書かれていったのかということ、それらの作品が、時の経過とともにどのような発展を見せたのかということも、楽器の観点から分析していきます。また、各楽器について個々に捉えるだけでなく、これらの楽器の組み合わせ（アンサンブル）にも注目し、楽器がどのように器楽作品の発展に貢献したかということを探っていきます。</p>	試験の結果（100%）
石井明／櫻井茂	学士課程	古楽器を通じた歴史的音楽実践	<p>身体知・音楽Ⅰは声楽クラスと器楽クラスに分かれて授業を行います。</p> <p>声楽クラス：＜使用教室＞第8校舎811教室 合唱・声楽アンサンブル音楽の実践を行う授業です。声の訓練、アンサンブルの訓練、音楽の歴史的・理論的の学びを3つの柱にして授業を展開します。これを通じ、歴史・文化の中の人間の生を体験し、芸術に秘められた人間の生を、文学・歴史・思想等、多角的視点から理論的に見つめ直すことを目的としています。 この授業の参加者は、慶應コレgium・ムジウム、アカデミー・ヴォーカル・アンサンブルのメンバーとなります。このグループで日吉キャンパス協生館の音楽ホール等で、成果発表の演奏会を開きます。総合教育科目「音楽」の合唱音楽よりも、内容・技術ともに1段階上のレベルを目指します。</p> <p>器楽クラス：＜使用教室＞第4校舎独立館地下2階DB203教室 バロック・ヴァイオリン、バロック・ヴィオラ、バロック・チェロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、チェンバロ、バロック・オーボエ、フラウト・トラヴェルソ、バロック・ファゴットなどの、一般的に古楽器と呼ばれている楽器を用いて、17世紀および18世紀の西洋音楽を実践的に学んでいくというのがこの授業の目的です。トリオンタなどの室内楽編成と、より大きめなアンサンブルであるバロック・オーケストラ（20人程度）双方の観点から音楽作品に取り組んでいきます。実践を通じ、17・18世紀の作曲家たちが何を演奏者に、そして聴衆に求めていたのかということや、17・18世紀の器楽作品には、どのような音楽的メッセージが込められているのかということなどを、現代ではなく、当時使われていた楽器を用いることで探求していきます。なお、使用ピッチはa=415となります。</p>	授業目標への達成度（40%）、授業への寄与度評価（30%）、出席（30%）を総合して評価します。
石井明／川田早苗／古川精一	学士課程	発展声楽クラス	<p>この授業では、音楽を通して歴史・文化の中の人間の生を体験し音楽演奏の実践体験によって、クリエイティビティを体系的に学び、知識としてのみではなく身体知として音楽文化をより深く理解することをめざします。</p> <p>身体知・音楽Ⅱの既修者を主な対象とし、個人レッスンの機会を増やすことによって、さらに発展した身体的訓練を行って、さらに豊かな発声・発語の力アンサンブル能力、表現力を獲得します。</p> <p>この授業の参加者は、慶應コレgium・ムジウム、アカデミー・ヴォーカル・アンサンブルのメンバーとなります。このグループで日吉キャンパス協生館の音楽ホール等で、成果発表の演奏会を開きます。身体知・音楽Ⅱよりも、技術的に1段階上のレベルを目指します。</p>	授業目標への達成度（40%）、授業への寄与度評価（30%）、出席（30%）を総合して評価します。
福田弥	学士課程	音楽学の基礎	音楽をたんに感覚的に聴く対象ではなく、調査・研究の対象として客観的に捉えられるようになることを目的とする。そのために音楽学という学問の概要を理解してもらいたい。音楽学の研究対象は、極端に言えば研究者が関心を向けるあらゆる音楽であり、その研究方法も多様であるが、本講座では楽譜を伴う音楽を対象とする。履修者には発表をしてもらう予定。春学期は、音楽とは何かを考えた上で、その研究方法について概説したい。	平常点（出席 授業態度 発表内容など）
音楽芸術学演習(3)	文学部 芸術学科	音楽芸術学 専門教育科目 専門教育科目	各自の専攻楽器についての歴史や、それに関わるオーケストラや吹奏楽、室内楽の歴史と名演奏、名奏者に迫る。	歴史や名演奏に触れることにより、各自の専攻楽器に対し一層深く向き合うことができる。
音楽芸術学演習(3)	文学部 芸術学科	音楽芸術学 専門教育科目 専門教育科目	管弦楽曲を中心に、構造分析を行う。作曲者が明確に意識して構築した楽曲構成を把握する。各曲を取り巻く時代背景の理解も重要となる。広々にして長大な楽曲を漠然と聴くのではなく、曲の設計図を明確に見据えながら作曲者・作品が伝えたいことに注意が向けられるようにする。また指揮者の立場からリハーサル技術、演奏論なども授業で取り上げる。受講者が授業時に演奏しそれを教官が指導する所謂「マスタークラス」も定期的に行う。	管弦楽曲のスコアを読解出来るようにし、曲の構造図を常に意識して曲の意図を汲み取る能力を習得する
音楽芸術学演習(4)	文学部 芸術学科	音楽芸術学 専門教育科目 専門教育科目	*4年実技試験及び卒業演奏会で演奏予定の楽曲を楽理的な考察と実技の両面からアプローチし、それらの楽曲を軸に声楽曲や声楽に関わる事柄（語学、発音、声楽界の国際事情等）について包括的に研究する。*	*4年実技試験及び卒業演奏会で演奏予定の楽曲の曲目解説（プログラムノート）を作成し発表する。そしてマスタークラス方式で演奏技術の完成度を高めてゆく。*
音楽芸術学演習(4)	文学部 芸術学科	音楽芸術学 専門教育科目 専門教育科目	管弦楽曲を中心に、構造分析を行う。作曲者が明確に意識して構築した楽曲構成を把握する。各曲を取り巻く時代背景の理解も重要となる。広々にして長大な楽曲を漠然と聴くのではなく、曲の設計図を明確に見据えながら作曲者・作品が伝えたいことに注意が向けられるようにする。また指揮者の立場からリハーサル技術、演奏論なども授業で取り上げる。受講者が授業時に演奏しそれを教官が指導する所謂「マスタークラス」も定期的に行う。	管弦楽曲のスコアを読解出来るようにし、曲の構造図を常に意識して曲の意図を汲み取る能力を習得する。
音楽理論	文学部 芸術学科	音楽理論 専門教育科目 専門教育科目	*下記の3項目を主要な項目として取り扱う。 1.音程と和音（コードネーム含む） 2.調の関係と和音（ディグリー含む） 3.移調及び移調楽器の理解*	専門職志望者に必要なレベル。具体的な目安として、教員採用試験の音楽理論問題が解けるレベル、ヤマハ指導グレード5級合格レベルの音楽理論の理解。
音楽理論	文学部 芸術学科	音楽理論 専門教育科目 専門教育科目	*下記の3項目を主要な項目として取り扱う。 1.音程と和音（コードネーム含む） 2.調の関係と和音（ディグリー含む） 3.移調及び移調楽器の理解*	専門職志望者に必要なレベル。具体的な目安として、教員採用試験の音楽理論問題が解けるレベル、ヤマハ指導グレード6級合格レベルの音楽理論の理解。
音楽と文学A	文学部 芸術学科	音楽と文学 専門教育科目 専門教育科目	スコアリーディング、音楽鑑賞、及び文学作品の抄読。音楽と文学の比較考察。	文学作品が音楽に与えた影響を理解する。
音楽と文学B	文学部 芸術学科	音楽と文学 専門教育科目 専門教育科目	スコアリーディング、音楽鑑賞、及び文学作品の抄読。音楽と文学の比較考察。	文学作品が音楽に与えた影響を理解する。
日本音楽論	文学部 芸術学科	音楽論 専門教育科目 専門教育科目		
民族音楽論	文学部 芸術学科	音楽論 専門教育科目 専門教育科目		